

伝 染 性 紅 斑

★ 伝染性紅斑とは

別名『リンゴ病』または『リンゴホッペ病』といわれるように、両ほほにみられる紅斑が特徴的です。原因は、ヒトパルボウイルスB19（HPV-B19）です。幼児（特に5才以上）から学童が感染しやすく、乳児や成人の発症はまれです。潜伏期は1～3週間です。

★ 症状

微熱が25～30%にみられ、倦怠感や疲労感、時には咳、鼻汁、胃腸症状やリンパ節腫脹を伴います。発疹は顔面（両ほほ）と四肢（特に伸側）に出現し、顔面の紅斑は全体が赤く手で触れると熱感があります。四肢の発疹はレース状または網目状です。体や殿部にもときどき発疹がみられます。発疹は5～7日程度で消失しますが、日光、入浴、寒冷などの刺激によって再び現れてくることがあります。



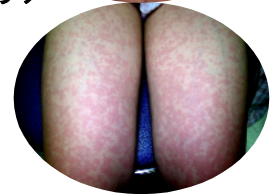
★ 診断

典型的な症状で診断できますが、気をつけていないと見過ごすことも多いと思います。血液検査などでは特有な所見はありません。



★ 合併症

ほとんど合併症はありませんが、まれに関節炎があります。



★ 治療

特別な治療を必要としません。かゆみが強いときには止痒剤を使い、他の症状があるときには対症療法を行います。

★ 注意点

- ※ 学校伝染病に含まれますが、発疹が出現した時点では、すでに他人には感染しなくなっていますので、**登校（登園）禁止にする必要はありません**。（発疹が出現する前1週間の間が最も感染しやすい時期です）。ただし熱がある時や合併症のある場合は別です。
- ※ 妊婦が罹患した場合、流産、死産の危険性があります。

